



大同工業株式会社

第119期 報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

Contents

事業領域	1
株主の皆様へ(事業の概況)	3
セグメント別の状況	5
中期経営計画	7
トピックス	8
財務の状況(連結)	9
会社概要	11
株式情報	12
株主メモ	13
DIDグループ会社の紹介	14

四輪車用

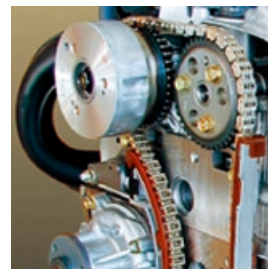
当社独自の特殊表面処理技術で、優れた耐摩耗性・疲れ強さ・高い静音性を実現した四輪車エンジン内チェーン。

【主な納入先】 HONDA、TOYOTA、DAIHATSU、MAZDA、SUBARU、SUZUKI、HYUNDAI、第一汽車

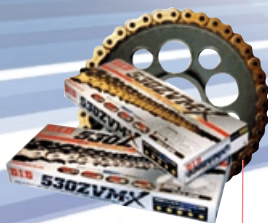
■ タイミングチェーン



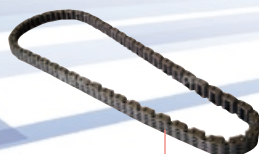
■ チェーンシステム



■ ドライブチェーン



■ カムチェーン



■ 鉄リム



■ アルミリム



二輪車用

「D.I.D」ブランドの高い信頼性と実績により、世界No.1の評価をいただく二輪車用チェーンは、多くの完成車メーカーに純正品として採用いただいております。

【主な納入先】 HONDA、YAMAHA、SUZUKI、KAWASAKI、BMW、DUCATI、HARLEY-DAVIDSON

DID

モノづくりへの情熱で世界

高度化・多様化するニーズに、コンサルティング能力と開発力、固有技術で、お客様の環境に合わせたソリューションを提供しています。

動力伝動・搬送用チェーン



[主な仕様用途]

- ・立体駐車場
- ・フォークリフト
- ・建設機械・農業機械
- ・食品加工機械
- ・印刷機械・包装機械



■ 静音チェーン

コンベヤシステム

■ 粉粒体・環境関連設備向け (エプロンバケットコンベヤ)



■ 製鉄関連設備向け (コイルコンベヤ)



事業領域

に感動をお届けするヒューマンテクノロジー

私たちは創業以来、「伝える」「運ぶ」をテーマに、世界のニーズを満たす技術の徹底追求を行い、高機能、高品質な製品をお届けしてきました。

その根底には、人にふれあう技術、人とともに伸びる技術という思想が貫かれています。

ものづくりは人づくり、そして情熱。私たち大同工業グループは、絶えず人と技術を原点に置き、ひたむきに「D.I.D」ブランドへの期待と信頼にお応えしています。

■ いす式階段昇降機 (楽ちん号)



■ 車いす用階段昇降機 (JDエスカル)



福祉機器

豊かで快適な福祉社会を実現するため、使う人の立場に立ったユニバーサルデザインに基づく福祉機器の開発を通じて、バリアフリー社会に貢献しています。



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

第119期事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の営業が終了いたしましたので、報告書をお届けし、ご報告申し上げます。

平成24年6月

代表取締役社長 新家 康三

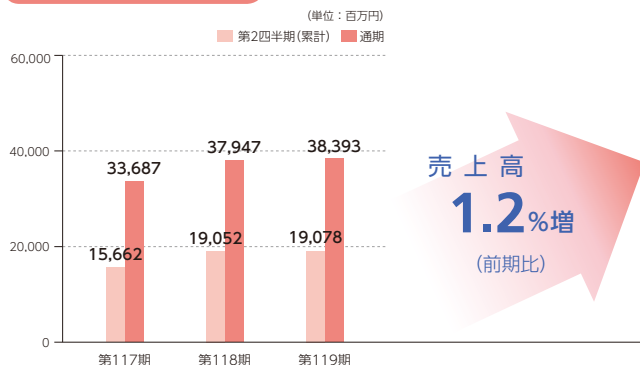
事業の経過及び成果

当期における当社グループを取り巻く環境は、海外においては、新興国経済に牽引され緩やかな回復傾向を示しましたが、欧州での財政・金融危機問題の深刻化により停滞感が強まり、先行き不透明な状況で推移しました。国内においては、東日本大震災からの復興が進むにつれ、緩やかに持ち直しの動きが見られたものの、昨年10月に起きたタイ洪水被害、長引く円高など、依然として厳しい状況が

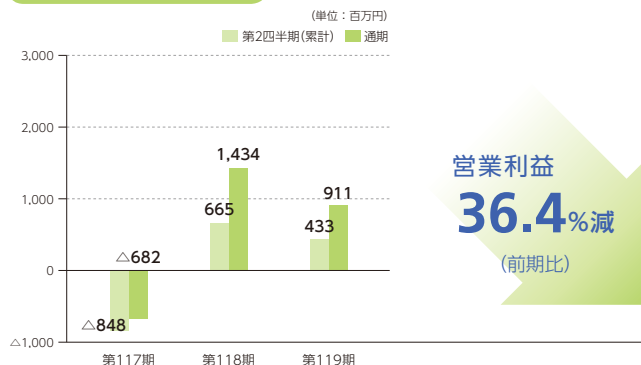
続いております。

このような情勢のもと、当社グループにおきましては、前半は東日本大震災、後半はタイ洪水による完成車メーカーの減産により受注減少の影響を受けたものの、二輪車用チェーンの需要が旺盛であったアジアを中心に、海外では堅調に推移いたしました。収益面につきましては、設備投資の圧縮、人件費の抑制等、経費の削減に努めてまいり

売上高



営業利益



ましたが、為替の円高基調、原材料価格の高騰、主要顧客である四輪車メーカー向けの受注減少の影響等により、厳しい状況で推移しました。

その結果、当期の連結売上高は、383億93百万円（前期比1.2%増）、連結営業利益は9億11百万円（前期比36.4%減）、連結経常利益は9億93百万円（前期比28.5%減）、連結当期純利益は、4億24百万円（前期比49.9%減）となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、欧州における財政危機問題が長期化し、新興国を含めた世界経済への影響が懸念され、また為替の円高、中東情勢の混迷に伴う原油価格の高

騰など、引き続き厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況のもと、当社グループでは『新たなステージへの変革』をスローガンとする第9次中期経営計画（2012～2014年）を策定し、本年よりスタートしております。インドにて二輪車用チェーン生産工場を立ち上げ、タイにおいては物流システム、各種搬送設備等の製造販売会社を子会社化するなど海外生産の拡大、グローバル事業の更なる展開を図るとともに、将来の収益源となる柱を確立すべく、新たな事業分野に挑戦し、新規事業の創出を目指してまいります。また、次世代を担う人財を育成し、常に発展しつづける企業体質づくりを進めてまいります。

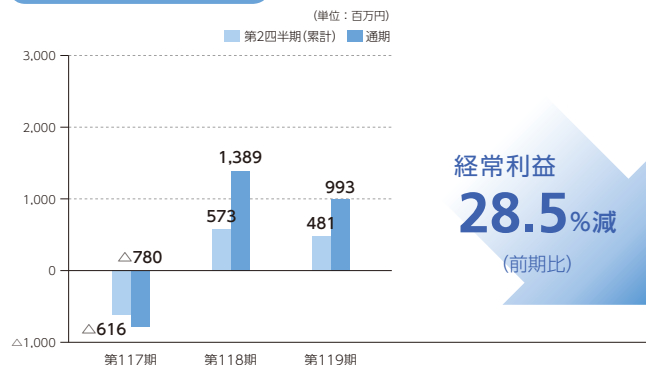
株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

第120期(平成25年3月期)連結業績予想

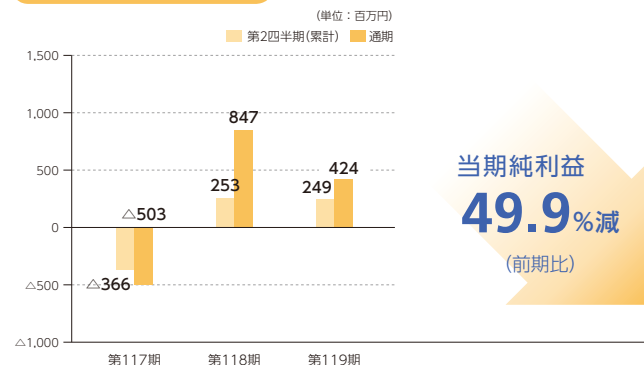
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期（累計）	19,800	800	750	300
通期	41,500	2,000	1,900	900

経常利益

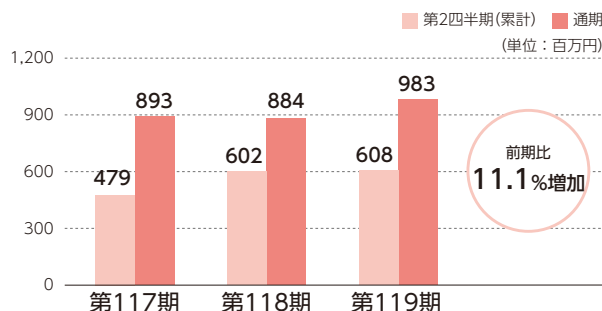


当期純利益



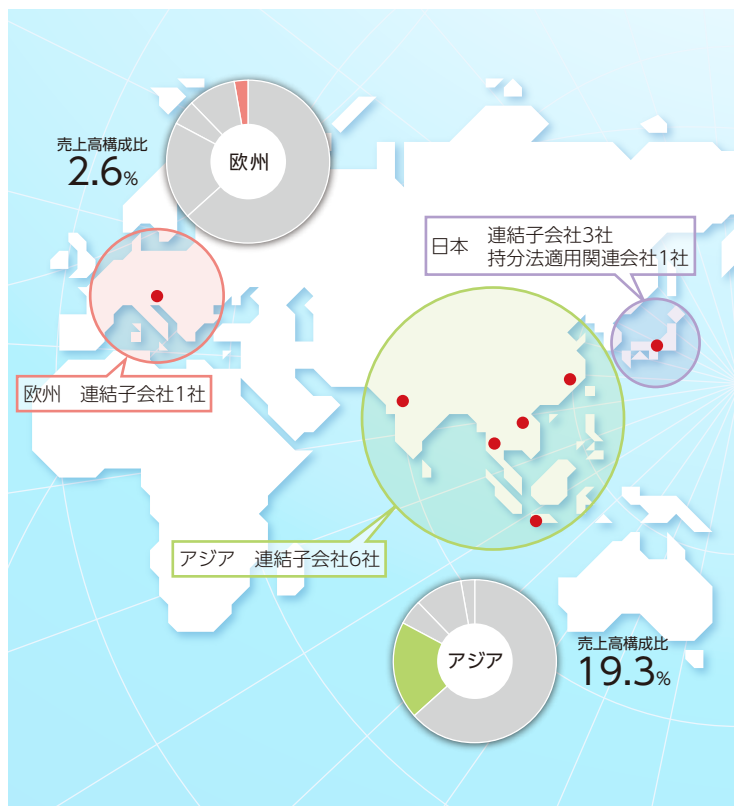
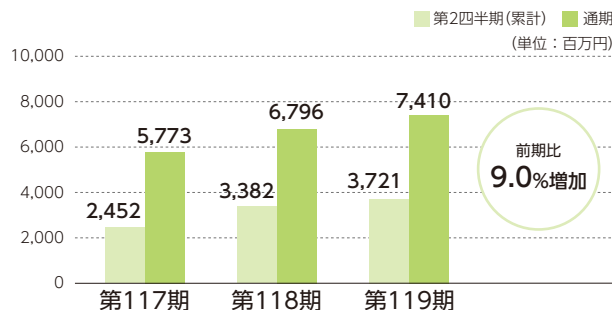
● 欧州

為替の円高影響を大きく受けたものの、二輪車用チェーン、リムについて、欧州系完成車メーカーの新車販売が好調に推移したこと及び補修市場向けにおいてもイタリア等の西欧を中心に順調に推移したことにより前期を上回りました。その結果、売上高は9億83百万円となりました。



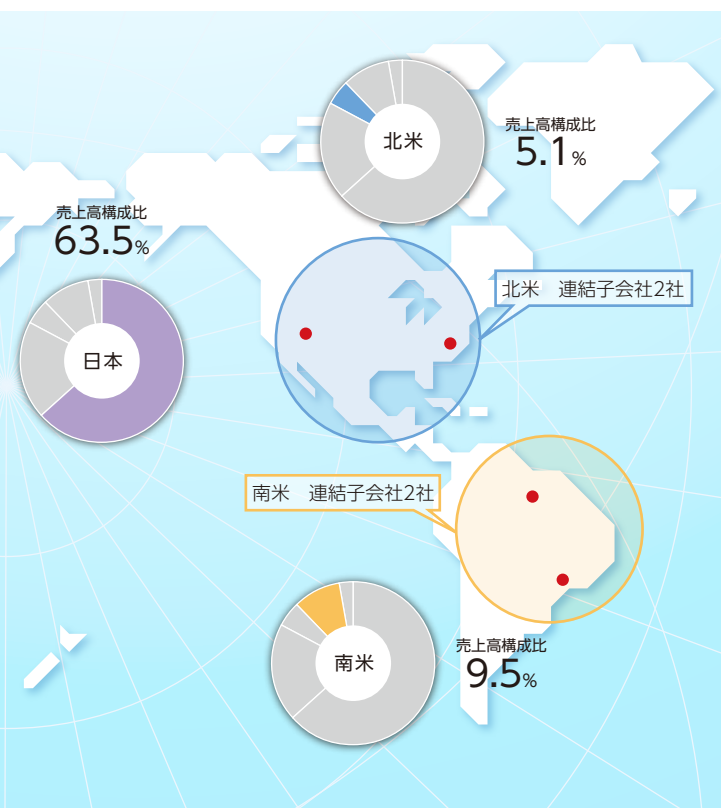
● アジア

中国におけるコンベヤ関連についてはセメント生産施設の新規建設制限の影響により大型案件の受注が乏しく前期を大きく下回りましたが、四輪車用チェーンについてはタイ、中国において順調に推移し前期を若干上回りました。二輪車用チェーンについてはタイ、インドにおいて完成車メーカー向けの新規受注による量産納入開始により前期を上回りました。また、補修市場向けについてもタイ、インド、インドネシア等の旺盛な需要により前期を大きく上回りました。その結果、売上高は74億10百万円となりました。



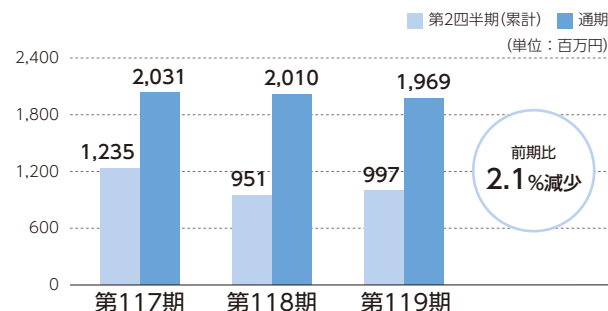
● 日本

産業機械用チェーン並びにコンベヤ関連については設備投資の抑制が依然として継続し厳しい状況で推移しましたが、一部セメント設備向けや環境関連設備向けの受注が増加し前期を若干上回りました。一方、四輪車用チェーンについては、国内外の完成車メーカー向けに新機種エンジン用チェーン及びチェーンシステム部品の量産納入を開始したものの、震災並びにタイ洪水による完成車メーカーの減産の影響を受け前期を大きく下回りました。二輪車用チェーン、リム等については完成車メーカーの海外生産移管により依然として低調に推移しほぼ前期並みの受注状況でした。その結果、売上高は243億65百万円となりました。



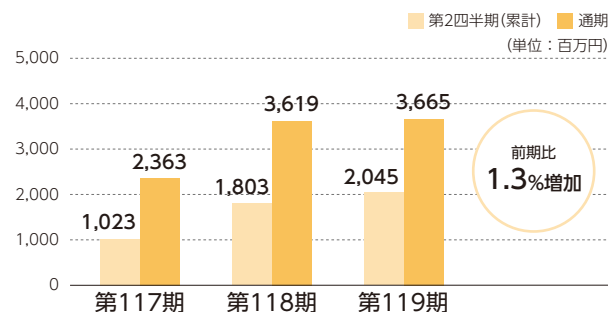
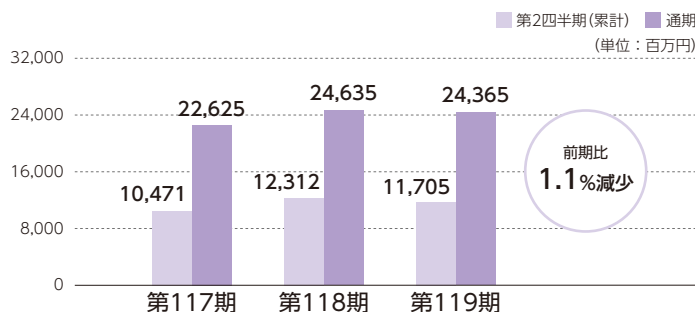
● 北 米

産業機械用チェーンについては建設機械向けが好調に推移し前期を上回りました。一方、二輪車用チェーン、リムについては、完成車メーカー向けにおいて生産回復の兆しがあったものの、補修市場向けは依然として厳しい状況で推移し、為替の円高影響もあり前期を下回りました。その結果、売上高は19億69百万円となりました。



● 南 米

産業機械用チェーンについては世界的景気低迷の影響による経済成長の鈍化、安価な海外製品の流入の影響を受け前期を若干下回りました。二輪車用チェーンについては、完成車メーカーの増産並びに新機種への量産納入開始により受注が増加し前期を上回りました。その結果、売上高は36億65百万円となりました。



第9次中期経営計画

120期～122期(2012年度～2014年度)

目指す姿

アジアなど成長市場の需要を取り込むため、第8次中期経営計画(2009年度～2011年度)で推進したグローバル事業体制を更に加速させ、二輪・四輪用製品の海外生産の更なる拡大、海外拠点のR&D機能の強化、販売製品群の拡大等を図っていきます。

一方、グローバル展開の更なる推進は、本社マザー工場のものでづくりの空洞化を伴います。その穴を埋めるべく、また、

チェーンに代わる将来の収益源となる柱を確立すべく、新たな事業分野に挑戦し、新規事業の確立を目指します。

新たなステージに向けたこれら取組みを強力に推進するためには、その担い手となる人財の育成強化が急務となっています。優秀な人財の能力、モチベーションを最大限に活かすことにより、事業の各機能を強化し、常に発展しつづける企業体質づくりを進めます。

経営スローガン

『新たなステージへの変革』 ～Innovation to the next stage～

会社方針



- ① グローバル化を積極的に展開し、新興国など世界の成長を取り込む
- ② 既存海外拠点の販売製品群の拡大
- ③ 二輪・四輪事業の海外生産の更なる拡大
- ④ 国内産機事業の強化と海外事業への展開

- ① 新商品の開発(本社空洞化対策、事業領域の拡大)
- ② 自由な発想による新規分野の開拓
- ③ M&A、アライアンス、産学連携等による外部技術(事業)の取り込み
- ④ 既存技術伝承と独自技術による需要開拓

- ① グローバル人財の育成及び強化
- ② 海外赴任、海外研修のしくみづくり
- ③ 人財の現地化推進

数値目標 (2015年3月期)

連結
売上高

500億円

連結
営業利益

40億円

連結
営業利益率

8%

■ RAD MANUFACTURING,INC.を孫会社化

昨年4月、当社の連結子会社であるDAIDO CORPORATION OF AMERICAは、アメリカ ユタ州で二輪車用ホイールの製造・販売を行うRAD MANUFACTURING,INC.を子会社化しました。これにより、広大な北米市場における当社グループのネットワークを強化し、グローバル事業の更なる展開を図ります。



オープニングセレモニーのテープカット

■ インド子会社DAIDO INDIA PVT.LTD.の新工場が稼働目前



工場完成予想図

近年顕著な経済成長をみせるインドにおいて、当社の連結子会社であるDAIDO INDIA PVT.LTD.は、昨年12月に生産工場の建設を開始いたしました。本年8月以降の稼働をもって、今後更なる拡大が予想されるインド二輪車市場への本格参入を図ります。

場 所：インド共和国ラジャスタン州ニムラナ工業団地内
敷地面積：約20,000㎡
建築面積：約2,850㎡
生産品目：二輪車用ドライブチェーン及びカムチェーン

■ 株式会社SIM-Drive先行開発車事業への参画

当社は、電気自動車の研究・開発を行う株式会社SIM-Driveが運営する先行開発車（電気自動車試作開発）事業第3号に参加いたしました。この参加を活用することにより、5～10年先の中期的将来に向けた次世代自動車市場での新規事業基盤の確立を図るとともに、電気自動車の普及促進と地球環境の保護に貢献したいと考えております。

SIM-Drive Webサイト：<http://www.sim-drive.com/>



試作車両「SIM-WIL」(第2号事業)

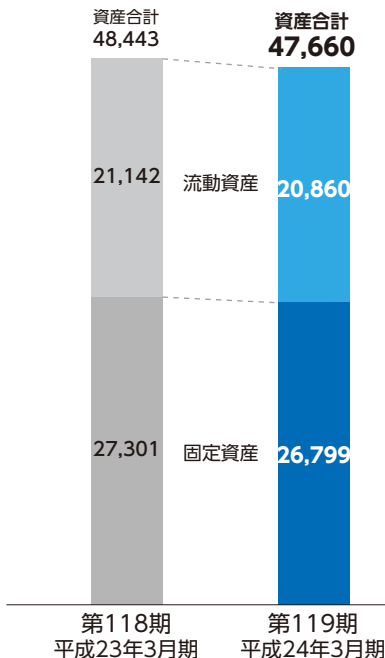
■ INTERFACE SOLUTION CO.,LTD.の子会社化を決定



本年5月、当社はタイで物流システム、各種搬送設備等の製造販売を行うINTERFACE SOLUTION CO.,LTD.を子会社化することを決定いたしました。これにより、引き続き拡大が期待される東南アジア諸国における社会インフラ整備及び企業の設備投資需要を効率的に取り込むとともに、産機事業の収益拡大と新たな事業展開を目指してまいります。

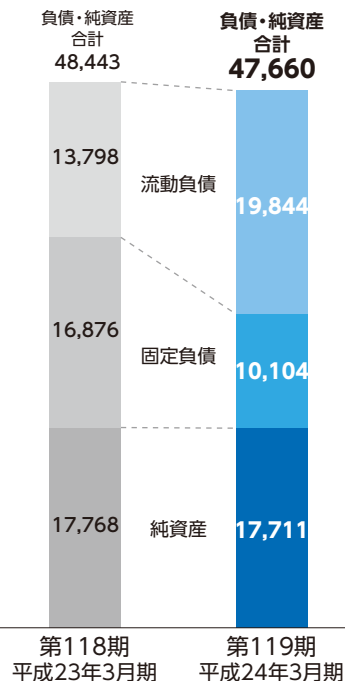
資産の部

単位：百万円



負債及び純資産の部

単位：百万円



ポイント解説

総資産は、受取手形及び売掛金、たな卸資産、投資有価証券が増加したものの、現金及び預金、機械装置及び運搬具が減少したことなどにより、前期末と比べ7億83百万円減少しました。

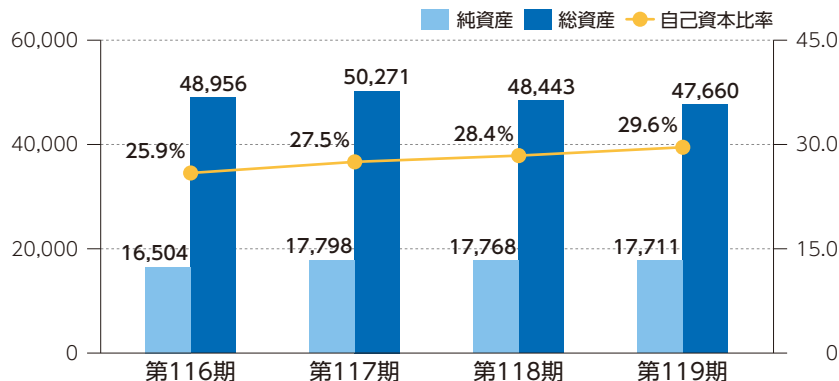
負債は、支払手形及び買掛金が増加したものの、借入金（短期借入金・長期借入金）、退職給付引当金が減少したことにより、前期末と比べ7億26百万円減少しました。

純資産は、少数株主持分が減少したことなどにより、前期末と比べ57百万円減少しました。

なお、流動負債及び固定負債の大幅な増減は、1年以内に償還が予定されている社債を固定負債から流動負債に振り替えたことによるものです。

純資産・総資産・自己資本比率

単位：百万円

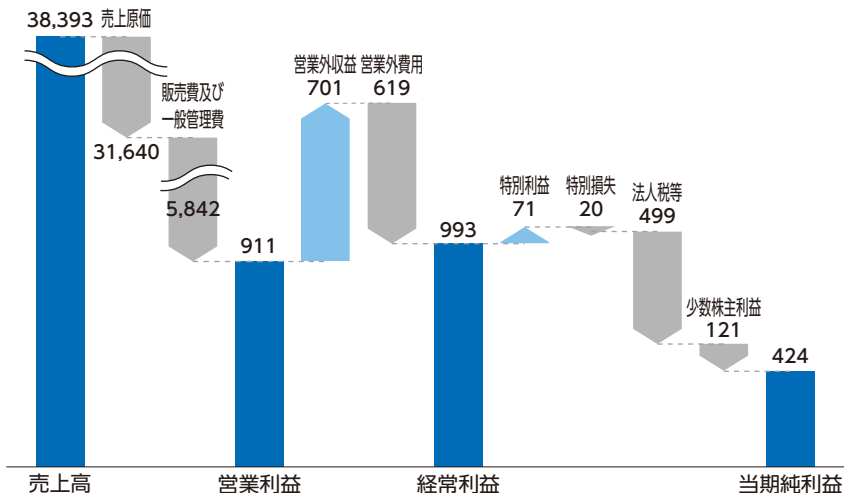


ポイント解説

自己資本比率は、為替換算調整勘定が円高影響により減少したものの、投資有価証券の時価回復によりその他有価証券評価差額金が増加したことで、前期末と比べ1.2ポイント上昇の29.6%となりました。

● 損益の状況 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

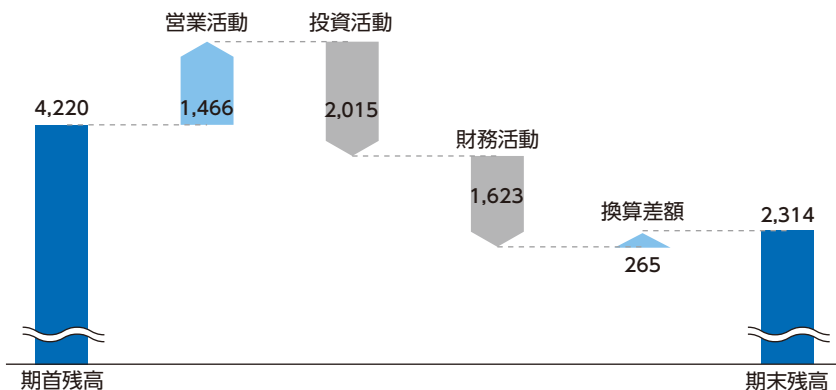
二輪車用チェーンに関しては、海外の需要が旺盛であったことから堅調に推移しました。四輪車用チェーンに関しては、新機種エンジン向けの量産納入を開始したものの、震災及びタイ洪水による完成車メーカーの減産の影響から厳しい状況で推移しました。産業機械用チェーン及びコンベヤ関連に関しては、設備投資抑制の影響等により厳しい状況で推移しました。その結果、売上高は若干増加しましたが、為替の円高基調や原材料価格の高騰などの影響に加え、法人税率の変更に伴う税金費用の増加により減益となりました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第119期 平成24年3月期	38,393	911	993	424
第118期 平成23年3月期	37,947	1,434	1,389	847

● キャッシュ・フローの状況 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税金等調整前当期純利益の計上及び減価償却費の計上、仕入債務等の増加により14億66百万円の獲得となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得により20億15百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローは、主に借入の返済により16億23百万円の支出となりました。

会社の概況

商 号：大同工業株式会社
設 立 年 月 日：昭和8年5月25日
資 本 金：27億2,637万円
従 業 員 数：725名（個別） 2,267名（連結）

事業所

本社・本工場：石川県加賀市熊坂町イ197番地
福 田 工 場：石川県加賀市大聖寺下福田町ソ20
動 橋 工 場：石川県加賀市動橋町サ22-1
東 京 支 社：東京都中央区日本橋人形町3-5-4（MS-2ビル）
大 阪 営 業 所：大阪市中央区南船場2-12-12（新家ビル）
名 古 屋 営 業 所：名古屋市中村区名駅南4-9-7
浜 松 営 業 所：浜松市中区菰丘1-19-11
熊 本 営 業 所：熊本県菊池市旭志川辺1074-1

グローバルネットワーク

国内ネットワーク

- 株式会社D.I.D
- 株式会社大同ゼネラルサービス
- 株式会社大同テクノ
- ガイド建設株式会社
- 新星工業株式会社
- 株式会社月星製作所
- 株式会社和泉商行

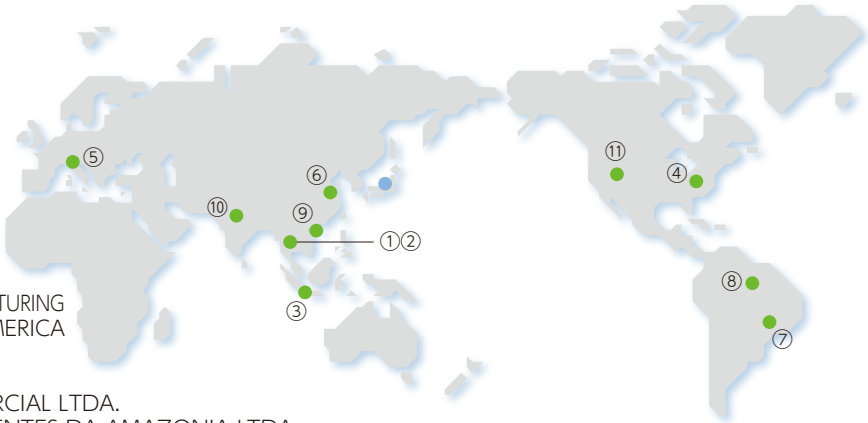
海外ネットワーク

- ① タイ DAIDO SITTIPOL CO., LTD.
- ② タイ D.I.D ASIA CO., LTD.
- ③ インドネシア P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING
- ④ アメリカ DAIDO CORPORATION OF AMERICA
- ⑤ イタリア DID EUROPE S.R.L.
- ⑥ 中国 大同鏈条（常熟）有限公司
- ⑦ ブラジル DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.
- ⑧ ブラジル DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA.
- ⑨ ベトナム D.I.D VIETNAM CO., LTD.
- ⑩ インド DAIDO INDIA PVT. LTD.
- ⑪ アメリカ RAD MANUFACTURING, INC.

会社役員の場合

会社における地位	氏 名
取 締 役 社 長	新 家 康 三
専 務 取 締 役	立 田 康 行
常 務 取 締 役	中 野 金 一 郎
常 務 取 締 役	平 野 信 一
取 締 役	金 野 誠 一
取 締 役	武 田 良 一
取 締 役	西 谷 伸 一
取 締 役	新 家 啓 史
取 締 役	菊 知 克 幸
常 勤 監 査 役	福 田 治
監 査 役	笠 松 靖 男
監 査 役	棚 橋 健 一
監 査 役	東 森 正 則

(注) 1. 監査役笠松靖男氏、監査役棚橋健一氏及び監査役東森正則氏は、社外監査役であります。
2. 当社は、監査役棚橋健一氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届出しております。



株式の状況

発行可能株式総数：160,000,000株

発行済株式総数：47,171,006株（自己株式46,548株を含む）

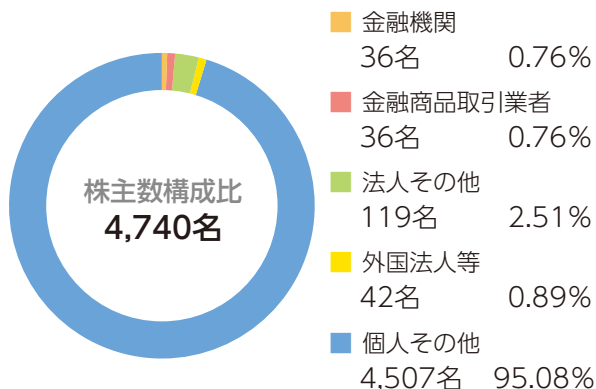
株主数：4,740名

大株主（上位10名）

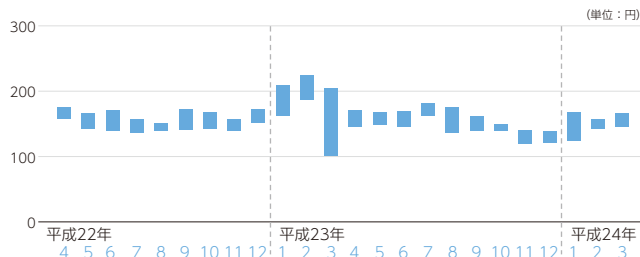
株主氏名及び名称	持株数	持株比率
株式会社北國銀行	2,281千株	4.84%
株式会社飯田	1,646	3.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,509	3.20
日本生命保険相互会社	1,377	2.92
加賀商工有限会社	1,308	2.78
大同生命保険株式会社	1,298	2.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,291	2.74
株式会社みずほ銀行	1,291	2.74
新家萬里子	1,287	2.73
住友信託銀行株式会社	1,176	2.50

- (注) 1. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 2. 住友信託銀行株式会社は、平成24年4月1日付けで中央三井信託銀行株式会社及び中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、三井住友信託銀行株式会社へと商号変更しております。

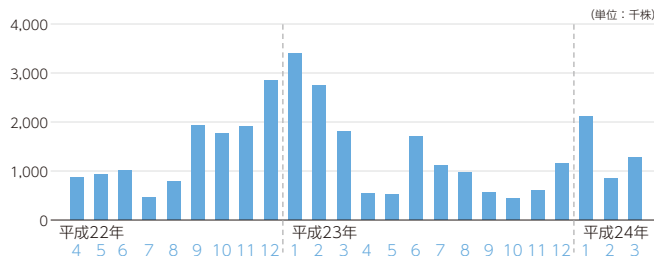
株式分布状況



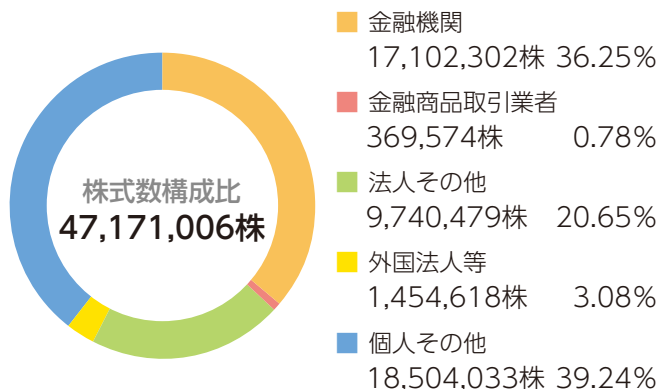
株価（高値・安値）の推移



出来高の推移



株式数構成比 47,171,006株



株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
単元株式数	1,000株		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日		
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
(電話照会先)	☎ 0120-176-417		
(インターネットHP URL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html		
公告の方法	当社ホームページに掲載(電子公告) http://www.did-daido.co.jp/jp/index.html		
上場取引所	東京証券取引所市場第一部		
証券コード	6373		

お知らせ(株式事務のご案内)

■ 各種手続き・ご照会について

株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなります。住所、氏名の後変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求などのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は、口座を開設されている証券会社までご連絡下さい。

■ 特別口座について

株券電子化の実施までに証券保管振替制度をご利用されなかった株式につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されております。特別口座で管理されている株式についてのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は特別口座管理機関である三井住友信託銀行までご連絡下さい。なお、三井住友信託銀行の全国本支店でもお取次いたします。

■ 単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場における取引単位を1単元(1,000株)とさせていただいておりますので、単元未満株式(1から999株)の株式は証券市場でのお取引ができません。当社単元未満株式の買い取りをご希望される株主様は、お取引のある証券会社(特別口座が開設されている株主様は、三井住友信託銀行)までお問い合わせ下さい。なお、買取請求に関する手数料は無料となっております。

■ 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。



P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING

資本金：10,300千米ドル

所在地：Kota Bukit Indah, Kawasan Industri Indotaisei, Sektor
IA Blok P - 2, Cikampek, Karawang, Jawa Barat,
41373 Indonesia

敷地面積：44,100㎡

建築面積：16,000㎡

取得認証規格：ISO/TS 16949、ISO 14001

従業員数：432名（2012年3月末）

ホームページURL：<http://www.daido.co.id>

P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURINGは、インドネシアの首都ジャカルタより東へ約80キロのカラワン県インド大成工業団地内にあります。周囲は、高層ビルが林立するジャカルタとは異なり、緑も多くのどかな雰囲気土地柄ですが、インドネシアの高度成長の波に乗り、活気に溢れています。

日本の二輪車メーカーのインドネシア進出に合わせ、鉄リムの製造・販売を目的に、大同工業と日系商社との合併会社として1997年に設立されましたが、当時のアジア通貨危機とジャカルタ大暴動の影響を色濃く受け、設立から約4年間の操業開始延期を余儀なくされるなど、決して順調な船出ではありませんでした。

何とか漕ぎ着けた2001年の操業当初は、鉄リム成形ライン2台



〔リム〕
二輪車用の鉄リムです。成形後、ニッケルクロムメッキを施すことで耐食性と装飾性を両立させています。

でのスタートでしたが、操業翌年にはメッキラインの設置、成形ライン増設と、徐々に鉄リム工場としての機能を拡充しながら、2007年には鉄リム、タイヤ、ハブ、スポークの組立を行うホイールASSY工場の操業開始。2009年には四輪車用部品の調達及び販売を開始。そして2011年には二輪車用エンジン内チェーンの組立工場を稼働させるに至

るなど、事業領域拡大に伴い、着実な成長を遂げてまいりました。

主力製品である鉄リムは、インドネシア国内は勿論のこと、日本及びアメリカの二輪車メーカー向けに加え、アジアを中心とする補修市場向けとしても輸出を行っており、品質面、製造面とも、日



本の本社工場を基準としながらも、現状に満足することなく、日々終わりのなき挑戦を続け、常にナンバーワンを目指しています。

引き続き高い経済成長が注目されるインドネシアではありますが、国内で抱える諸問題もまだまだ多いことから、CSR活動の一環として、微力ながら近隣小学校への寄付や工業団地内企業合同で地域住民参加型イベントの企画等も行っています。昨年は、おかげ様で操業10周年を迎えることができ、社員一同気持ちを新たに日々の生産活動に励んでいます。

今後とも、二輪車市場のみならず四輪車市場においても益々の成長・拡大が期待されるインドネシアにおいて、本社及び海外子会社各社との連携強化と、より一層の相互補完体制を確立し、社会貢献とDIDブランドの更なる普及に全力で取り組んでまいります。

ホームページのご案内

<http://www.did-daido.co.jp/>



投資家の皆様に財務情報や最新トピックスをご提供しております。



より詳細な財務情報をご希望の方は、当社ホームページ
[投資家向け情報] をご覧下さい。

大同工業 投資家向け情報

検索

<http://www.did-daido.co.jp/jp/ir/index.html>

